

郷土に親しみ郷土を愛し郷土を誇りに思う児童・生徒の育成

— 小中連携による系統的な下仁田学習を通して —

下仁田町立下仁田小学校教諭 齋藤 靖明

下仁田町立下仁田中学校教諭 谷川 英樹

I 主題設定の理由

昨今の世界情勢や震災後の我が国の状況等から考える時、「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。」「生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。」等、教育基本法に掲げられた教育の目標は、地域に根差した特色ある教育によって推進され、達成されていくものであると改めて理解することができる。また、学習指導要領にあるように、「生きる力をはぐくむための、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得、これらを活用する力、課題を解決するための思考力、判断力、表現力の育成、主体的な態度の育成等」のためには、創意工夫を生かした特色ある教育活動の展開が重要であり、そのための地域素材の教材化や系統的な地域学習の充実が望まれている。

下仁田町には、日本ジオパークに認定されている豊かな自然環境（根なし山、中央構造線等）やユネスコ世界文化遺産に登録された絹産業遺産群の1つである荒船風穴、その他特産品としてのネギとコンニャク、産業としての林業などがあり、地域素材にはたいへん恵まれている。保護者や地域の方々は学校教育に協力的であり、これらの地域素材を生かした学校教育が推進できる環境にある。

地域学習については、これまでも、小学校、中学校ともに、総合的な学習の時間を中心に、理科、社会科、技術・家庭科、道徳等、様々な教科領域で行われ、一定の成果を上げてきている。しかし、これまでは系統的な指導という面が十分には意識されておらず、体験学習などもそれぞれの指導者が創意工夫するにとどまっていた、職員の共通理解は不十分であった。

下仁田町は、過疎化と少子高齢化による人口減少が進み、4つの小学校が統合し町内全域から1つの小学校、中学校へと児童・生徒が通学するようになった。これを機に郷土下仁田町の地域を生かした学習を推進することがより容易となった。そこで、義務教育9年間を見通し、発達段階に応じた系統的な「下仁田学習」を体系化して作り上げ実践していくことで、郷土下仁田に親しみ郷土を愛し郷土に誇りをもって卒業していける児童・生徒の育成を目指し、本主題を設定した。

II 研究のねらい

地域学習に対する児童・生徒の実態や保護者の思いを把握し、下仁田学習の概要を明確にするとともに、郷土下仁田の地域素材を活用した教育課程を編成・実施することで、郷土に親しみ郷土を愛し郷土を誇りに思う児童・生徒を育成する。

III 研究の見通し

- 1 郷土下仁田町の自然や産業、伝統、文化等の地域素材を教材として教育課程の中に位置づけ実施することで、系統的な下仁田学習を展開することができるであろう。
- 2 総合的な学習の時間や理科、社会等の時間の中で、小中が連携し系統的な地域学習を展開することで、郷土に親しみ郷土を愛し郷土を誇りに思う児童・生徒が育成されていくであろう。

IV 研究の概要

本研究は、以下のように研究を進めた。

- (1) 児童・生徒及び保護者に、下仁田町の特徴等についての知識や意識についてのアンケート調査を行い、分析する。
- (2) 下仁田町の地域素材を活用した下仁田学習の教材系列表を作成し、小学校・中学校の教育課程へ位置づける。
- (3) それぞれの学年で行う下仁田学習について、単元（題材）名、ねらい、実施時数、学習内容等について、まとめるとともに、授業実践を進める。

V 研究の基本的な内容

1 下仁田学習について

(1) 下仁田学習とは

郷土下仁田の地域素材を活用した特色のある教育課程を編成・実施し、小中学校9年間で系統的な学習を展開することによって、郷土に親しみ郷土を愛し郷土に誇りをもてる児童・生徒の育成を図る教育。

(2) 下仁田学習を進める上での基本的な考え方

小学校では、下仁田の特徴を体験する機会を多く設定し（入力中心）、中学校では、下仁田についての情報発信を設定する（出力中心）。

2 児童・生徒、保護者へのアンケート調査

(1) アンケートの概要

児童・生徒へのアンケートは、「下仁田町が好きか嫌いか」と「下仁田町の特徴的な事柄」23項目についての認知や体験の程度について、4つの選択肢から回答する形式で行った。

保護者へのアンケートは、「下仁田学習」で取り上げたほうがよいと考えられる「下仁田町の特徴的な事柄」23項目についての4つの選択肢からの回答と、「これ以外に、子どもたちに知っておいてほしい下仁田のこと」についての自由記述で行った。

(2) アンケートの結果と考察

ア 小学校の児童、保護者へのアンケート結果

(ア) 「下仁田町は好きですか」と「その理由」の児童アンケート結果

アンケートの結果は、好き97人(57%)、少し好き53人(31%)、あまり好きでない15人(9%)、嫌い5人(3%)、であった。

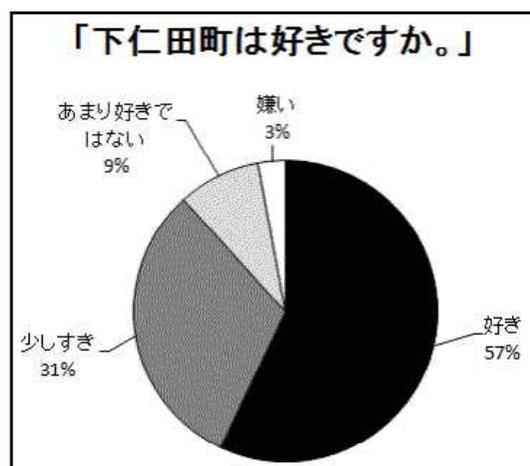
主な好きな理由は、「緑が多く、自然が豊かできれい。ふるさとだから。」であり、主な嫌いな理由は、「大きなお店がない。」であった。

(イ) 「次の事柄について知っていますか」の児童アンケートと「下仁田学習で取り上げたほうがよいと考えられる題材」の保護者アンケート結果と分析

① 児童アンケートの「下仁田町についての知識・体験等」では、「知らない・聞いたことはある」と「体験した（行った・見た）・説明できる」とで、割合を比較したところ、以下のことが明らかとなった。

○「妙義山の石門、下仁田ジオパーク、根無し山（クリッペ）、川井の断層（下仁田小の下）、青岩公園、荒船風穴、跡倉クリッペのすべり面（青倉）、神津牧場、下仁田自然学校、中小坂鉄山」等、5、6年生で学習したり訪れたりする項目については、高学年の方が「体験した・説明できる」の割合が高い。

○「かいこの育て方、こんにゃくの育て方、こんにゃくの料理」等、以前は学校で扱っていなかったが統合後の2年間で学習するようになった項目については、中学年の方が「体験し



た・説明できる」の割合が高い。

- 低学年で訪れる「ほたる山公園」や小学校の近くでよく訪れる「諏訪神社」は、中学年、高学年とも「体験した・説明できる」の割合が高い。さらに、近くにあつて有名な「富岡製糸場」や学校や家で体験している「下仁田ネギの育て方、下仁田ネギの料理」も、「体験した・説明できる」の割合が高い。一方、学校の学習であまり取り上げていない項目については「体験した・説明できる」の割合が低い。

このように、児童が「学校での学習として体験したり、訪れたりした項目」については、「体験した（行った・見た）・説明できる」という回答が多くなっており、「学校であまり学習していない項目」については、「知らない・聞いたことはある」という回答が多くなっていることがわかる。

- ② 保護者のアンケートでは、「ジオパークとその関連」「荒船風穴と富岡製糸場」「ネギやコンニャクなどの特産品」「下仁田戦争」、等を取り上げてほしいと考えている保護者が多い。これらの多くは、現在も学習しているが、「下仁田戦争」についてはほとんど学習していない。

また、保護者から「自然・歴史・生活など、現地を訪れて学ばせたい。」「下仁田の素晴らしい地質を学んでほしい。」「下仁田ネギはすごい。姫街道で人権学習を。」

これらのことから、小学校では、総合的な学習の時間を中心に、各教科等と関連させながら下仁田町の「ジオパークとその関連」「荒船風穴と富岡製糸場」「ネギやコンニャクなどの特産品」等について、幅広く体験を通じた学習を進めていく必要があると考えた。

イ 中学校の生徒、保護者へのアンケート結果と分析

(ア) 「下仁田町は好きですか」と「その理由」の生徒アンケート結果

アンケートの結果は、好き84人(59%)、少し好き40人(28%)、あまり好きでない14人(10%)、嫌い5人(3%)、であり、小学校の児童と同程度の割合であった。

主な好きな理由は、「自然がたくさんあり、空気がきれい。特産物がある。人が優しい。」であり、主な嫌いな理由は、「大きなお店がない。楽しめるところがない。不便だ。」であった。

(イ) 「次の事柄について知っていますか」の児童アンケートと「下仁田学習で取り上げた方がよいと考えられる題材」の保護者アンケート結果と分析

生徒・保護者のアンケート結果から考えられることは、以下の通りである。

- 生徒は体験したこと行ったことがある項目についてはよく理解している。中学生の理解が高い項目を見ると、『ほたる山』『青岩公園』『妙義の石門』『神津牧場』である。これらの項目は、小学生の時の遠足や校外学習、中学生になっての奉仕作業などで実際に行った場所である。このことから生徒は、自分で実際に行つて見たことについてはよく理解し説明できる状態であることがわかる。一方、小学校や中学校で学習する機会が少なかった項目については、生徒の理解が低くなっている。

- 保護者が生徒の下仁田学習としてぜひ取り上げてほしいと考えている項目は、『ジオパーク』『富岡製糸場』『荒船風穴』『下仁田戦争』であり、それぞれ30%を超えている。しかし、それらについて説明できるほど理解が進んでいる生徒は10%にも満たない状態であり、保護者が生徒に学習して理解してほしいという願いと生徒の実態はかなり離れているといえる。

これらのことから、中学校では、どれか項目の一つについて深く学習を進めるのではなく、3年間を通してバランスよく全ての項目について関わられるような学習を進めていく必要があると考える。そこで、1年生では、総合的な学習の時間に、下仁田町の魅力を「町の観光パンフレット」以上に伝えられる中学生版の観光パンフレットを作る学習などで、それぞれの項目に関わらせていく必要があると考える。また、2年生と3年生の総合的な学習の時間ではそれぞれ「職場体験」や「下仁田町の魅力を発信」する学習を通して関わられるようにする

ことが大切であると考える。

3 小学校・中学校、各学年での下仁田学習の教材系列表

児童・生徒の発達段階、地域の実情、各学年の学習指導要領にあわせ、小中学校の各学年の下仁田学習の教材系列を、以下のように設定した。

小学校の下仁田学習の教材系列表（ゴシック体は下仁田学習、その他は関連する学習）

学年	学校行事	総合的な学習の時間	生活	理科	社会
1年	遠足「ほたる山公園」	はる、なつ、あき、ふゆともだち、おおきくなあれ (みぢかなしぜんにしたしむ、きゅうこんを育てる)			
2年	遠足「ほたる山公園」	下仁田ネギを育てる体験をしよう まちたんけん、いきものだいすき (まちの〇〇にしたしむ、いきものを育てる)			
3年	遠足「自然史博物館」 または「城下町小幡」 旅行「歴史博物館」ま たは「ぐんま昆虫の森」	コンニャクを育て て食べてみよう われら下仁田たんけんたい (下仁田町ふるさとセンタ ー歴史民俗資料館)	昆虫を育てよう(カイコの飼育) 磁石の性質(中小坂鉄山)	下仁田町の地域学習 (絵地図、歴史、文化、 農家の仕事、古い道 具、昔の生活)	
4年	遠足「自然史博物館」 または「城下町小幡」 旅行「歴史博物館」ま たは「ぐんま昆虫の森」	季節の自然観察 共に生きよう 下仁田ネギを育てる体験をしよう		下仁田町の地域学習 (町を拓く、水はどこ から、ゴミはどこへ、 地域の偉人)	
5年	宿泊訓練 「妙義青少年自然の家」 遠足「下仁田ジオパーク」	自然に触れよう感じよ う イネを育てよう (田植え・稲刈り体験、 陸稲づくりなど)	流れる水の はたらき (馬山段丘) (鎗川・青岩)	わたしたちの と食料生産 (米づくり) 生活と森林	
6年	遠足「荒船風穴と 神津牧場」 「尾瀬学校」 旅行「鎌倉方面」	郷土の自然を調べよう 日本の文化や歴史に触 れよう (尾瀬や鎌倉との比較) 校外学習「絹遺産群 について調べよう」	大地のつく りと変化(青 岩、地層、 石灰岩など) 生き物のく らしと環境	縄文のむら 明治の国づく り(絹遺産群 を調べよう)	

中学校の下仁田学習の教材系列表

	学校行事	総合的な学習の時間	各教科
1年		下仁田町を理解しよう - 下仁田町隠れ名所マップを作ろう - (18時間) ジオパークについて理解を深めよう - マイジオサイトを発信しよう - (12時間)	[理科] 大地の成り立ちと変化 ・火山と地震 ・地層の重なりと過去の様子
2年	職場体験学習 立 志 式	仕事の魅力を発見 - 職場体験より「林業体験」 (36時間) 立志式に向けて - お世話になった人への感謝 - (15時間)	[社会] 身近な地域の調査 [社会] 開国と近代日本の歩み(下仁田戦争) [美術] 下仁田宣伝の「のぼり旗」の作成
3年	修学旅行(奈良・京都)	修学旅行(奈良・京都)で学習したことをまとめよう (15時間) 下仁田町の魅力を発信しよう (22時間)	[社会] よりよい社会をめざして - 持続可能な社会の形成へ向けた課題の追求 -

4 下仁田学習の各学年ブロックのねらい

児童・生徒の発達段階、地域の実情、各学年の学習内容にあわせ、各学年ブロック等の下仁田学習のねらいを、以下のように設定した。

《小学校1・2年生》 ほたる山公園への遠足や町たんけん、ネギ植え体験、生活科の学習等を通して、下仁田町の自然や特色に親しむ。

《小学校3・4年生》 コンニャクの栽培やカイコの飼育・観察、季節の自然観察、下仁田町ふるさとセンター、理科や社会科での学習等を通して、ジオパークや絹遺産群、特産品への理解を深める。

《小学校5・6年生》 ジオパークの学習、妙義青少年自然の家への宿泊訓練、荒船風穴への遠足、尾瀬学校、理科や社会科の学習等を通して、下仁田町への理解を深めるとともに、郷土を愛する心情を育成する。

《中学生》 小学校での学習内容をベースに、総合的な学習の時間、理科、社会、美術等での学習を通して下仁田町の特色について理解を一層深めるとともに、下仁田町の魅力について発信し、郷土を愛し誇りに思う心情を育成する。

VI 下仁田小学校における実践例より

1 単元名 大地のつくりと変化 (B 生命・地球 (4)土地のつくりと変化)
 小学年6年生 理科

2 目標

身のまわりの大地やその中に含まれる物に興味を持ち、大地の構成物やでき方について資料などで学習したことをもとに地層を観察し、そこが水のはたらきと火山のはたらきのどちらでできたところかを推論できるようにする。また、大地の変化について、自然災害と関係づけながら調べ、大地は地震や火山の噴火などによって変化することをとらえるとともに、そこに見られる自然の力の大きさを感じとれるようにする。

3 指導と評価の計画 (全12時間)

時間	ねらい	学習活動	支援及び留意点	評価項目 (方法) 【評価の観点】
① ②	・小坂川の河原に見られるしま模様は、砂や泥などが積もってできた地層が流水でけずられて作られたことを、観察により確認させ、推論させる。	・小坂川の河原を橋の上から観察し、問題意識を持つ。 ・河原に下りてスケッチしたり、専門の先生の話の聞いたりして、問題を解決していく。 ・推論をまとめ発表する。	・推論を確かめるために、どのように調べればよいか考えさせ、河原へ移動する。 ・下仁田自然学校の先生に支援をいただきながら、ルーペを使って観察させ、大切なことをメモさせる。 ・観察で、すごいなど思ったことや感想なども記入させ発表させる。	・観察した地層の様子から、小坂川の河原に見られるしま模様は、地層が流水でけずられ、固い層が残って作られたことを推論している。 
③ ④ ⑤	・地層はどのようにしてできるか調べさせ、水のはたらきや火山のはたらきでできた地層の特徴を理解させる。	・流れる水やビーカー、水槽、火山モデルなどを使い、地層のできるようにする。実験で再現する。 ・水のはたらきでできた地層と火山のはたらきでできた地層との違いを比べる。	・できるだけ多様な実験が行えるよう、教材研究を進めておく。 ・火山モデルの再現については、視聴覚教材を活用する。 ・化石についても扱う。	・水のはたらきでできる地層、火山のはたらきでできる地層の違いを、実験を通して調べることができる。 (行動観察・記録) 【技能】
⑥ ⑦ ⑧ ⑨	・地震や火山の噴火による大地の変化を調べ、	・地震や火山の噴火について基礎的な事象を理解し、災害との関係でまとめ、発	・過去に起こった自然災害について、地震や火山の噴火と関連していたものを調べさせる。	・過去に起こった自然災害で、地震や火山の噴火などと関連していた物を調べ、まとめ、わかりやすく発表するこ

	大地の変化と災害についてまとめ、発表させる。	表する。	・興味を持った内容について調べさせながら、グループでまとめさせ発表させる。	とができる。 (行動観察・記録) 【思考・表現】
⑩ ⑪ ⑫	・下仁田の大地がどのようにしてきたかを調べ、地質時代の歴史を理解させる。	・下仁田ジオパークの資料などをもとに、下仁田町の地質を調べ、過去の歴史をまとめ、発表する。	・下仁田自然学校の先生に支援していただきながら、地質時代の歴史を整理させる。	・下仁田町の大地が、長い時間をかけ、地層や火山堆積物など、様々なできごとからできあがったことを理解している。 (行動観察・記録) 【思考・表現】

4 実践の成果と課題

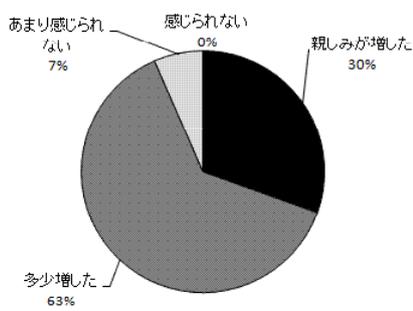
(1) 単元学習後のアンケート結果より

「大地のつくりと変化」の単元終了後、6年生児童46名に以下の項目でアンケート調査を行った。アンケート内容は、次の通りである。

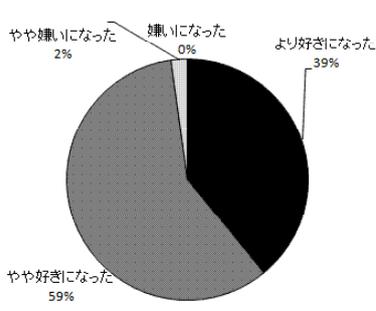
- ①この学習で、下仁田町への親しみは変わりましたか？
- ②この学習で、下仁田町への好き嫌いは変わりましたか？
- ③この学習で、下仁田町のよさやすばらしさの感じが変わりましたか？
- ④学習を終えての感想は？（記述）

①～③の結果から、下仁田町への親しみが増し、下仁田町を好きになり、下仁田町のよさやすばらしさを感じるようになったと感じている児童の多いことがわかる。このことから、本単元の学習を通して、下仁田学習のねらいにせまることができたと考えられる。

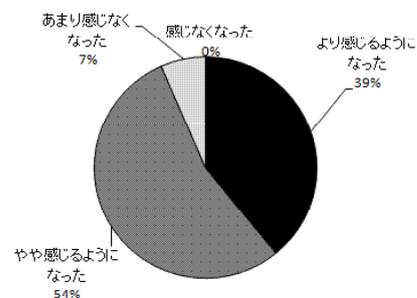
①下仁田町への親しみ



②下仁田町の好き嫌い



③下仁田町のよさやすばらしさ



④の学習を終えての印象や感想では、以下のようなものが多かった。

- ・下仁田は、大昔からの歴史があり、いろいろな地層があり、すごいと思った。下仁田は、とてもいいところだと思った。
 - ・本物の地層や火山灰を観察して、理科の楽しさが増え、理科がもっと好きになった。
- これらからも、児童が本単元の学習に意欲的に取り組み、その結果下仁田学習のねらいにせまることができたと考えられる。

Ⅶ 下仁田中学校における実践例より

- 1 単元名 観光パンフレット『下仁田町隠れ名所マップ 中学生版』を作ろう
中学1年生 総合的な学習の時間

2 目 標

地域の観光に関心を持ち、地域の人々と関わりながら観光名所の詳しい情報を集め、中学生版の観光パンフレットを作ることを通して、地域のすばらしさを知り地域への愛着を深める。

3 指導と評価の計画（全18時間）

時間	ねらい	学習活動	支援及び留意点	評価項目（方法） 【評価の観点】
①	・観光地としての下仁田に関心を持ち、地域について積極的に調べようとする気持ちを持つ。	・下仁田町の観光名所について話し合う。 ・下仁田町の産業について振り返る。 ・下仁田クイズに取り組ませる。	・深く知らないから、その良さが説明できるように、地域のことを調べるように話す。	・小学校での学習や自分の体験を思い出し、観光名所をあげたり、そのよさを考えたりしている。 (発表・学習カード①) 【関心・意欲】
②	・「観光パンフレット」の形式について話し合い、意欲的にパンフレット作りに取り組む気持ちを持つ。	・「下仁田隠れ名所マップー中学生版ー」の内容、作り方、書き方について話し合う。 ・グループ分け	・楽しい、わかりやすいなどの言葉の場合には、具体的にどういうものか深く考えさせる。	・どんな形式のパンフレットがいいか考え、学習カードに記入している。 【関心・意欲・態度】
③ ⑤	・「下仁田名所マップ 中学生版」に載せる記事の情報集めに出かける計画を立てる。	・班ごとに名所を考え、情報収集に出かける計画を立てる。 ・取材活動の練習をする。	・グループごとに無理のない活動計画を立てさせる。	・「下仁田名所マップ」作りにつながる情報収集活動の計画が立てられる。 (学習カード②) 【思考・判断・表現】
⑥ ⑨	・班ごとに現場に出かけ、情報を集める。	・班ごとに町に出かけ、第1次調査活動を行う。 ・早く帰ってきた班からまとめを書く。	・遠い場所についてはバスの手配をする。 ・安全について再度指導する。	・計画通り情報収集することができたか。 (学習カード③) 【技能】
⑩ ⑫	・情報を整理し、中間報告会の準備をする。	・パソコンファイルに直接写真を貼り、文章を書き込む。 ・班ごとに発表練習を行う。	・班ごとに下書き用パンフレットのデータを用意する。	・魅力的な写真や文章で、観光地を紹介しようとしている。(下書きパンフレット) 【思考・判断・表現】
⑬	・パンフレットに載せる写真や文章が適当か話し合う。(中間報告会)	・パンフレットに載せたい文・写真等を報告する。(中間報告会) ・それぞれの名所のよさ悪さを判断する。	・めあてに照らして話し合うよう指導する。 ・町に詳しい人の話を聞かせる。	・情報集めのめあてを意識して、パンフレットに載せる情報を発表したり、他のグループの情報提示を聞いたりしている。(態度) 【思考・判断・表現】
⑭	・第2次調査活動の計画を立てる。	・第2次調査活動の準備・計画をする。 ・2時間で帰ってこら	・2時間で行ってこられないところについては休日を利用す	・第2次調査活動の計画が立てられたか。 (学習カード④)

		れる計画を立てる。	るよう指導する	【思考・判断・表現】
⑮	・第2次調査活動 に出かけ、足りな ⑯ かった情報を集め る。	・第2次調査活動に出 かけ、足りなかった情 報を集める。	・安全について再度 指導する。	・計画通り情報収集す ることができたか。 (学習カード⑤) 【技能】
⑰	・再調査したこと をまとめ、下仁田 駅や下仁田道の駅 に置いてもらう。	・記事の最終修正をす る。 ・終わらなかったとき は放課後や昼休みを使 ってまとめる。	・下仁田駅や下仁田 道の駅に置いてもら うよう連絡する。	・下仁田町のよさが表 れた観光パンフレット を作ることができたか。 (パンフレット) 【技能】
⑱	・単元全体の学習 を振り返り、地域 のすばらしさにつ いて考える。	・最終報告会を行う。 ・地域のすばらしさ について意見交換する。	・有名な観光名所 以外にもすばらしい ところがたくさんある ことに気付かせる。	・下仁田町の魅力につ いて理解しているか。 (授業の様子・学習カ ード) 【理解】

4 実践の成果と課題

(1) 単元学習後のアンケート結果より

ア 『「下仁田町隠れ名所マップをつくろう」の学習に意欲的に取り組みましたか。』

多くの生徒は「下仁田町隠れ名所マップをつくろう」の学習に意欲的に取り組んでいた。生徒の活動の様子を見ても、二度目に行った現地調査では遠いところまで積極的に出かけると共に、普段はおとなしい生徒も町の人に自分からインタビューを行っていた。中間検討会の話し合いでも、もっとよいパンフレットにするために熱心に話し合いが行えた。最終的に全ての班で自分たちの分担を丁寧に仕上げ、写真と説明文で観光パンフレットを作成することができた。

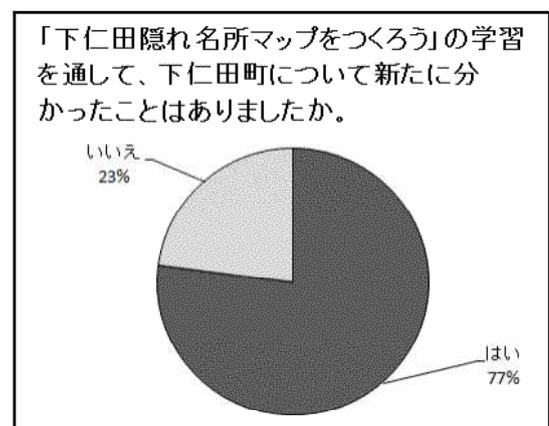
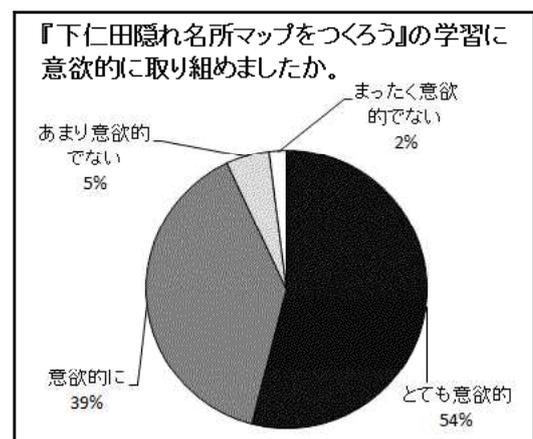
イ 『「下仁田町隠れ名所マップを作ろう」の学習を通して、下仁田町について新たにわかったことがありましたか。』

新たに分かった内容としてあげられたのは、次のような内容である。

「歴史民俗資料館で下仁田の歴史が学べること」「隠れたところいろいろなよいお店があること」「下仁田戦争のこと」「下仁田がジオパークに認定されたわけ」「特産物のこんにゃくには病気の予防効果があること」「ドーナツやカツどんなど、おいしい食べ物がたくさんあること」「意外と自分が下仁田のことを知らないこと」

アンケート結果から、生徒たちは下仁田町の自然や産業、伝統、文化等多岐にわたって学ぶことができていたことがわかる。

ウ 『「下仁田町隠れ名所マップ」で、読んでくれる人に一番伝えたかったことはどんなこと



ですか。』

アンケートに下仁田町のよさを書くことができた生徒が多かったことから、生徒は自分たちの町には他の地域にないすばらしい観光名所があることに気付いたり、自分たちの地域に生活している人々の思いに気がついたりする生徒が増えようである。その結果、郷土に親しみ郷土を愛し郷土に誇りを持たせた生徒が多くなったと考えられる。



Ⅷ 研究の成果と課題

1 研究の成果

- 下仁田学習の概要や基本的な考えを明確にすることができた。
- 下仁田の地域素材を活用した下仁田学習の教材系列表を作成し、小学校・中学校の教育課程へ位置づけることができた。さらに、この教材系統表にもとづき系統的な下仁田学習を展開することができるようになった。
- 児童・生徒及び保護者に、下仁田の特徴等についての知識や意識についてのアンケート調査を行い、分析し、学習内容を精選することができた。また、それぞれの学年で行う下仁田学習について、授業実践を進めることができた。
- 小学生には、下仁田の特徴を体験する機会を多く設定し（入力中心）、中学生には、下仁田についての情報発信を設定する（出力中心）ことで、児童・生徒が興味を持ち意欲的に学習に取り組むことができた。また、郷土下仁田町に親しみ、より深く理解することができるようになってきた。

2 今後の課題

- 本年度、下仁田学習の教材系列表はできたが、まだ不十分な点がある。実践も今後積み重ねて改善し、より有効な下仁田学習としたい。
- 下仁田学習の実践にあたり、総合的な学習の時間での位置づけ、行事との関連、教科の中での関連づけなど、さらなる工夫・改善に努めたい。